

新しい日本語能力試験の特徴

2010年から、新しい日本語能力試験が始まりました。

日本語能力試験には、20年以上の歴史がありますが、この間に日本語を勉強する人が増えて、何のために日本語を勉強したり使ったりするかが変わってきました。そこで、このような変化に合わせて、2010年第1回(7月)試験から日本語能力試験を改定しました。新しい日本語能力試験(新試験)は、これまでの試験(旧試験)を引き継いで、新たな改定を加えた試験です。

新しい日本語能力試験の4つのポイント

ポイント1 コミュニケーション能力を重視した試験です

新試験では、①日本語の文字や語彙、文法についてどのくらい知っているかだけでなく、②その知識を実際のコミュニケーションで使えるかも大切だと考えます。そこで、①を「言語知識(文字・語彙・文法)」、②を「読解」と「聴解」という試験科目によって測ります。新試験はこれらの組み合わせにより、総合的に日本語のコミュニケーション能力を測る試験になりました。

※解答は旧試験と同じマークシート方式です。話したり、書いたりする能力を直接測る試験科目はありません。

ポイント2 レベルは5段階、自分に合ったレベルが選べます

新試験のレベルは5段階(N1、N2、N3、N4、N5)です。できるだけきめ細かく日本語能力を測るために、試験問題はレベルによって違います。

旧試験ではレベルは4段階(1級、2級、3級、4級)でした。新試験では、旧試験の2級と3級の間に新しいレベルがひとつ増えて5段階になったので、より自分に合ったレベルを選んで受験できるようになりました。

● 認定の目安と新旧試験のレベルの対応

レベル	認定の目安	新旧試験のレベルの対応(参考)
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる	合格ラインは旧試験の1級とほぼ同じ。ただし、旧試験の1級よりやや高めレベルまで測れるようになる
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級とほぼ同じレベル
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級と3級の間のレベル 新設
N4	基本的な日本語を理解することができる	旧試験の3級とほぼ同じレベル
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる	旧試験の4級とほぼ同じレベル

※認定の目安の詳しい内容は6ページをご覧ください。

ポイント3 尺度得点で日本語の能力を正確に測ります

新試験では、受験者の日本語能力がより正確に得点に表れるようにするために、得点の出し方を変えました。「素点」ではなく、「尺度得点」で得点を出します。

旧試験の得点は「素点」でした。これは「何問正解したか」をもとに計算する得点です。試験問題は、どんなに注意して作っても、毎回少しずつ難しさが変わります。ですから、素点の試験では、試験が難しかったときと易しかったときでは、同じ能力でもちがう得点になることがあります。

新試験の「尺度得点」は、受験者ひとりひとりがどのような問題にどのように答えたか(どの問題に正解して、どの問題をまちがったか)を調べて、それぞれのレベルの尺度(ものさし)の上で計算して得点を出します。同じレベルの試験は、いつも同じ尺度(ものさし)を使って計算します。ですから、試験が難しかったときでも易しかったときでも、どの回の試験でも、同じ能力なら同じ得点になります。

このように、尺度得点を使うと、試験を受けたときの日本語能力をより正確に、公平に、得点に表すことができます。

※尺度得点についてもっと詳しく知りたい人は、日本語能力試験公式ウェブサイト(www.jlpt.jp)をご覧ください。

試験結果の通知

受験者には、合格・不合格、得点区分ごとの得点と総合得点(尺度得点)、そして参考情報が書かれた「合否結果通知書」を送ります(得点区分については5ページをご覧ください)。

参考情報は、得点区分が、「言語知識(文字・語彙・文法)」のように、複数の要素で構成されているとき、そのそれぞれの要素(文字・語彙と文法)の正答率[※]をA～Cの3段階で表示するものです。

これにより受験者は、何がどのくらいできたかがわかり、今後の日本語学習の参考にすることができます。

※正答率とは、各要素の問題数全体に占める、正解した問題数の割合のこと。なお、参考情報は、「何問正解したか」を表す情報であり、尺度得点とは異なります。合否判定の対象にはなりません。

得点区分(尺度得点)

- N1、N2、N3……言語知識(文字・語彙・文法)
- N4、N5……言語知識(文字・語彙・文法)・読解

合否結果通知書(見本：N1～N3)



判定基準

- A 正答率67%以上
- B 正答率34%以上67%未満
- C 正答率34%未満

参考情報(正答率)

- 「文字・語彙」と「文法」
- 「文字・語彙」と「文法」と「読解」

ポイント4 日本語を使ってどんなことができるかがイメージしやすくなります

各レベルの合格者が、日本語を使って、どのようなこと(聞く・話す・読む・書く)ができるかと考えているかを調査しています。その結果は「日本語能力試験Can-do自己評価レポート」として、まず2011年7月に中間報告を行い、2012年3月には最終報告をまとめます。受験者やまわりの人々は、このレポートを、「このレベルの合格者は、学習・生活・仕事の場面で日本語を使ってどんなことができるのか」のイメージ作りの参考資料として使うことができます。